

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今回のほかの方の一般質問の中でも、いわゆる義務教育学校の導入に向けて検討し始めてるというお話がありました。それと絡めて、義務教育学校の実施というのは相当時間かかりますので、その前に兵庫型の教科担任制の導入というものも比較的容易にできることなんじゃないかと思いますので、ぜひ進めていただきたいなと思います。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を55分に行いたいと思います。10時55分ですね、お願いいたします。

暫時休憩いたします。

〈午前10時46分 休憩〉

〈午前10時55分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、近藤新二議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。〔9番 近藤新二君登壇〕

○9番（近藤新二君）

おはようございます。

創生クラブの近藤新二です。

通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、学校給食について。

政府は令和5年6月に定めた「こども未来戦略方針」で、子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感を解消するため、「学校給食費の無償化の実現に向けて、まず、学校給食費の無償化を実施する自治体における取組実態や成果・課題の調査、全国ベースでの学校給食の実態調査を速やかに行い、1年以内にその結果を公表する。その上で、小中学校の給食実施状況の違いや法制面等も含め、課題の整理を丁寧に行う」とし、検討を重ねてきた結果、令和7年2月25日に自民・公明両党と日本維新の会の3党合意を結び、給食無償化について「まずは小学校を念頭に、地方の実情等を踏まえ、令和8年度に実現する」と報じられました。

学校給食の狙いは、毎日を健康でいきいきと生活できるようにするために、食事、運動、休養の調和の取れた生活習慣を身につける必要があることを伝えることにあります。

特に、心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、栄養バランスの取れた食事を1日3回きちんと取り、合理的に栄養を摂取することは健康な生活を送る上で基本とされています。また、家族や友人と和やかに食事をすることは、豊かな心や望ましい人間関係を育成する上からも、大切な役割を果たすものです。学校給食法が昭和29年制定され、時代と環境に応じ改正がされて現在に至っています。糸魚川市の学校給食について、以下、伺います。

- (1) 学校給食調理等業務の民間委託について。
- (2) 給食提供の実態について。
- (3) 米や原材料等の物価高騰に対する給食費の対応について。
- (4) 保育園、幼稚園の給食費について。

## 2、ごみ処理の行政課題について。

現在、経済成長と人口増加に伴って、地球規模での廃棄物の増加と質の多様化が起こっています。適正処理が行われない廃棄物は、生活環境や公衆衛生を悪化させ、時に深刻な健康被害を引き起こす可能性があります。持続可能な開発のためには、廃棄物問題に適正に対処する必要がある中で、日本のごみの分別は世界的に評価されています。

分別収集は、資源の有効活用と環境負荷の低減に果たす役割が大きいと言われていますが、処理技術が大きく進歩してきている今日、異論が出てきています。旧態依然とした分別処理を大きく方向転換し、新たな時代を迎えて、ごみ処理の取組を市民に負荷をかけず、ごみ処理経費も削減する糸魚川方式を確立し、全国に発信できる事案と考えます。糸魚川市のプラごみの分別収集の状況を伺います。

- (1) 当市の市民の分別マナーについて。
- (2) 当市のプラごみの分別収集量の推移。
- (3) 分別経費の推移とトン当たりの単価の推移。
- (4) プラごみの最終処分先はどこか。
- (5) 市は最終処分先の状況を確認しているか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

近藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、おおむね適切に行われていると考えております。

2点目につきましては、プラスチック製容器包装類の収集量は、近年、減少傾向にあり、6年度は422トンとなっております。

3点目につきましては、プラスチック製容器包装類の処理経費は、近年、横ばいで推移しておりますが、トン当たりの処理単価は、物価高騰の影響もあり、年々上昇しております。

4点目と5点目につきましては、プラスチック製容器包装類は、公益財団法人日本容器包装リサ

イクル協会を通じて、再商品化しております。

また、プラスチック使用製品は、2年度から分別を変更し、清掃センターで焼却・熱回収し、健康づくりセンターの温水の熱源としており、埋立て等を行っておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もごございますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

近藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今年度から糸魚川、青海地域でも給食調理及び配送業務の委託を行っており、平成26年度から委託している能生地域と併せ、市内全ての小学校、中学校及び特別支援学校で委託により実施をしております。

2点目につきましては、12か所の調理場で業務を行っており、1日当たりの提供食数は約2,700食となっております。

3点目につきましては、食材費の値上がり分については、国の交付金を活用するなどして対応しており、保護者負担は求めておりません。

4点目につきましては、国の公定価格を参考に、3歳未満児は保育料に含み、また、3歳以上児は給食費を徴収しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

2回目の質問をお願いします。

1の（1）ですが、今年の4月から、糸魚川地域と青海地域の小・中学校で、学校給食調理が、全国的にも有名なシダックスグループの傘下にあるシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社に民間委託されました。

この会社ですが、放課後児童クラブの運営や学校給食運営、公共施設の運営管理など様々な分野で自治体のサービスをサポートしている企業と聞いてます。糸魚川市は、この会社を選んだ理由をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

調理業務のほうを委託しておりますシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社でございますが、こちらにつきましては、プロポーザルを経て、業者のほう選定をさせていただいたというところ

ろでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

この会社ですが、以前から能生地区の学校給食センター、また、各小学校の放課後児童クラブの委託もやられてるということを聞いていましたが、実績があるところで安心していきます。

4月1日からですね、学校給食調理等業務者は、糸魚川市から新たに委託会社に再雇用されたと聞いておりますが、作業者の待遇や労働条件等で、この作業者から不満や意見等があったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

これまで市の職員として令和6年度までは調理業務に携わっていただいたところではありますが、4月から調理業務の委託ということで、そちらの会社の職員というふうになられているというふうにしております。

先ほどお話ししましたプロポーザルのその仕様書の中では、令和6年度にその方を雇用していた部分の給与水準、そちらのほうは下回らない形で、上回ることといったようなことも仕様書の中で定めさせていただいておりまして、対応はさせていただいてるというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

下回らないということで、一安心しております。

でもですね、民間企業に再就職ということで、今まで市の職員だった人が民間企業になったわけですが、こういった方々には少し寄り添った形で意見等も聞くべきだと私は考えております。アンケートなどの調査もご検討の一つに入れておいてください。

また、昨年の7月に令和6年度第1回行政改革推進委員会で、この学校給食の民間委託について議論がされております。委員から、学校給食センターの稼働率が指摘され、早川や大和川まで対象となる小学校を広げる予定はとの質問がされたと思いますが、糸魚川市はどのように答弁したのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

大変申し訳ございません。私、今ほど議員そちらのご指摘の書類ちょっと手元にないもので、正確にお答えできないかもしれませんが、これまで能生地域のほうでは、調理業務ということで給食センターのほうで作ったものを配送しておりますけれども、若干やはり能力に余裕がございました。そういった部分をほかの地域にもというところも考えられるところではございますが、やはり距離的な部分の制約であったりそういったところもございますので、なかなかそちらの対応はできなかったといったところがあるかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

すいません、課長は、たしかこの会議には出席されてなかったと思うんで、この会議に出席されていた副市長、また総務部長、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嶋田総務部長。〔総務部長 嶋田 猛君登壇〕

○総務部長（嶋田 猛君）

おはようございます。

お答えいたします。

私は昨年、その会議に出席しておりまして、今ちょっと細かな会議録等ちょっと承知しておりますが、委員の中からは、そういった、先ほどこども課長が申し上げましたとおり、既存の、例えば能生地域の給食センターで給食数の余裕、また配送の能力等があればですね、これまで、例えば閉校になりました木浦小学校まで配送していたといった実績がありますので、少し配送距離を伸ばせられないかといった意味も、その質問といいますか、込められてるんじゃないかなというふうに感じております。現在、令和7年度から、糸魚川、青海地域では、各学校で給食のほうを委託で行っているというふうな、今に至ってるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

この会議で市の答弁では、その検討も考えてるよと。また、設備が古くなり、投資が困難と判断したときに、切替えを検討したいというふうに答弁がされております。大和川小学校、また、下早川小学校、設備も古くなる。今現在、まだ使えるということなんですが、あとどれぐらい、古くなるまでもつのか、概算でいいんで、あと何年か示してもらいたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

あと何年使えるかといったところをなかなかお示しするのは難しいものがございます。給食の調理器具ですが、例えば釜ですとかそれぞれの器具が、それぞれ結構高価だったりというようなところで、入替えにも費用がかかったりするといったところもございます。建物自体の老朽化というものもありますが、それぞれのそういった器具の老朽化といったところも勘案していかなければいけない部分もございますので、そういったところも含めながら、今後、検討はさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

糸魚川市は、人口減少が大変問題となっております。現在、働き手も数少ない状況が続いておりますが、将来の学校給食について、糸魚川、青海地区の学校給食のセンター化、もう作業者の削減を考えるべきときに、検討しなければいけない時期だと私は思っていますが、教育長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

今現在については、民間委託ということで市内の子供たちに不自由なく配給・配食させていただいております。

将来的な展望として、統合したような形でもって、給食センターというふうな部分のところの提供だろうというふうに私は今お聞き取りしました。学校再編というふうな部分のところ絡んできますし、地域づくりというふうな部分のところも絡んできます。そんな意味合いで、グランドデザインの中に、やっぱり食というふうな部分についても大変大事な場面ですので、そこら辺りも考えの中に入れながらですね、やっぱりビジョンをつくっていくというふうなことが求められているのかなというふうに受け止めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

教育長、ぜひとも検討材料に入れといてみてください。よろしくお願いします。

次に、食物アレルギーについて伺います。

我が国における食物アレルギー体質を持つ方の正確な人数は、把握できないと言われてます。全人口の1から2%、乳幼児に限定すると約10%の方が、何らかの食物アレルギーを持っているものと考えております。このような食物アレルギーに対する有効な治療法はないため、原因となる食べ物を食べないことが予防、治療を行う上での原則とされています。この食物アレルギー体質の児童生徒をしっかりと把握しているか、また、教育委員会と、この民間委託先の会社、また、学校給食調理業務管理者との連携は、どのように行っているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

アレルギー対応につきましては、場合によっては命に関わるといったところもございますので、非常に重要な対応だというふうに認識をしております。市内でもアレルギー対応している児童生徒は一定数いらっしゃいまして、そういった方々につきましては、あらかじめ医師の診断書等もですね、対応指示書等も頂く中で、しっかりと適切に管理をしているところでございます。

なお、この4月から業務の委託はしておりますが、あくまで調理業務だけを委託しておりますので、そういったアレルギー対応も含めてしっかりと栄養士、あるいは学校、教育委員会が関わっているというところでございますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

今までどおり教育委員会と調理担当者の方々が、しっかりフォローしているということをお聞きしました。

昨年の9月、上越市立の小学校で、低学年児童が給食の時間にアレルギー症状で救急搬送された事故が発生しました。児童は、重度の卵アレルギーで、市の教育委員会発表では、昨年9月9日、卵成分を除いた給食を食べ終わった後、手を洗いに行き、教室に戻ったところ、同級生のかきたま汁の食器などが自席に置いてあり、左肘が食器に触れ、児童が腹痛や体のかゆみなど、症状を訴えた。だが、担任や栄養教諭は、児童を安静にさせず、内服薬を飲ませるなどの対応しなかったとされております。その後、連絡を受けた母親が学校に駆けつけ、投薬と症状を抑えるエピペン注射を行ったと報道されてます。

この事案は、被害児童の保護者は、学校側が安全配慮義務を行っていたなどとして市に損害賠償を求め、新潟地裁高田支部に提訴しました。糸魚川市は、この事故報道を教訓に、どのような検討がなされ、対応されたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

上越市の事案につきましては、私どもも確認をして承知をしております。やはりアレルギー対応につきましては、もともと誤った提供をしないといたところは当然大前提でございますけれども、もし万が一そういったことが発生した場合の事後対応といったところも非常に重要になってくるとは思っております。そういった症状が出た場合にですね、すぐさま先ほどお話あったようなエピペンの対応ですとか、現場での対応をするといったところを、改めて学校等にも周知を図っていく中で、安全管理に努めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

児童によって、それぞれの処置の仕方があると思いますので、しっかりとした対応を望みます。

また、上越市では、今年の4月22日に、この児童が通う小学校の給食に蛍光灯の破片が混入する事故が発生しました。また、5月10日には、市営の交流体験施設で、中学生12人に毒素成分を含んだコンニャク芋を誤って夕食で提供。5月13日は、市立直江津小学校で漂白剤が混入した水を職員が誤って提供した。児童6人が飲む事故が起きています。

糸魚川市は、このような事故の報告はいまだありませんが、引き続き食の事故を起こさないよう、最善の注意と体制の強化をお願いします。

次に、（2）の給食提供の実態について伺います。

最近、福岡市の小学校で今年の4月に提供された給食で、メインの主菜が空揚げ1つとされる画像がSNSに掲載されると、貧素、寂しい、少ないなどの全国のニュースでも取り上げられています。担当課は、この報道をどのように感じたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

そちらの、議員ご指摘の実際の給食の画像を私もインターネットで見ました。確かに皿が大きい割にですね、空揚げが小さかったなというふうに、見た目の印象は思ったところではありますけれども、ただ、給食提供につきましては、しっかりと児童生徒の年代に応じた栄養計算をして提供をさせていただいておりますので、しっかりとその部分は担保された上での提供であるのではないかなというふうに認識をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

この報道によると、しっかりと620キロカロリーがあるよということで、福岡市の教育委員会の担当課長によると、空揚げ1個の理由として、調理の手間を省くという点で、2個程度の大きさの60グラムにしたとされてます。大きめで調理することで、柔らかく仕上げることができる。

一方で、改善に向けた話では、子供たちが給食を見たときにもっとおいしく見えるような給食や、外部の民間の方からアイデアをいただいて、もっとおいしいと思える給食にしたいと報じられています。

私の家庭でも小学生がいることから、夕飯が給食とかぶらないように給食の献立表を見たり、したりすることがあります。また、夕食時に子供たちが、今日の給食の何々がおいしかったなどの話もします。かなり私の家の子供たちは、給食に関心があると感じております。

以前、糸魚川市のホームページに給食の画像が掲載されてたと思いますが、市民からの反応やご意見は、どんなものがあつたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

給食の内容につきまして、ご家庭等でもお話しいただくといったことにつきましては、食育の観点から見ても、非常に喜ばしいことじゃないかなというふうに思っております。

先日もですね、市内ではジビエ給食ということで、昨年、県内初で実施させていただきましたが、そういった部分の、地域の課題に基づいた部分の給食提供などもさせていただいております。特に、保護者の方から、こども課のほうに直接的なご意見等とかはいただいておりますけれども、ジビエ給食でありますとか、そういった地域のことを理解いただけるような給食提供については、今後も努めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

お願いします。

私たちの時代は、もう学校給食というと、全て児童生徒に盛りつけられて、残ったものがない状態だったと思うんですが、今現在の学校給食の配膳方法はどのように行ってるか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

学校では、子供たちが給食当番という当番をクラスの中を何人かに分けたりして、回り番で行っており、子供たちが盛りつけをするというような形で配膳しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

私の孫に聞くと、お代わりできるときがあるということを聞いてるんですが、実際、給食があったとして、例えば盛りつけの量などを目星をつけて、それに見合った量、もしくは一人一人の食べられる量を盛りつけるのか、そういった工夫はされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

当然、子供たちの食べる量というのは、一人一人違ってきますので、その点につきましては、基準量を盛った後に調節したりする。あるいはもともと、もう最初から自分は小食だから減らしてほしいとかというようなことで対応しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

先ほども出た、糸魚川ジオパークの大地の恵みである地場産食材、また、地域に伝える郷土料理を学校給食で提供するジオ給食を月1回実施していると聞いております。子供たちに食の文化を伝え、食育に引き続き力を注ぐようお願いいたします。

次に、先ほどの空揚げ1個の報道の中で、東京都の小学校の栄養士のコメントの中に、1食当たり給食費が400円以内と発言されていました。

そこで、福岡市の給食費を調べたところ、小学生1食当たり243.15円、150円以上差があることに気づきました。国で定めたカロリーや栄養も必要ですが、量と質も必要と感じます。糸魚川市の小学校の国内平均と比べ、給食は幾らなのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市内の給食につきましては、小学校のほうが、保護者さんからの給食費の徴収額といたしましては、単価1食当たりの単価が280円であります。また、中学校につきましては、320円ということでございます。

ただ、実際に給食の調理に関わっております食材費といった部分につきましては、小学校のほうが320円ということで、実際に保護者さんから頂いている額とは40円差がございます。中学校につきましては、実際に食材費にかかっている額は、1食当たり380円ということで、60円の差

額があります。そちらの経費につきましては、今現在、国の交付金を活用したり、市のほうで負担したりということで、保護者負担を抑えながら提供はさせていただいているといったところがございます。

県内の給食費の状況等を見ますとですね、県内、先ほど私、申し上げた単価ございますけれども、小学校のほうは、月額徴収額といたしましては5,000円、中学校では5,500円というような形で徴収させていただいておりますけれども、県内平均と比べますと、糸魚川市の徴収金額の平均といったところでは、真ん中よりも下の部分というような形になっておりまして、比較的低いほうだというふうには認識しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

そこで、私、令和5年5月1日現在の都道府県別学校給食費の平均額を調べました。中学校の一番高いのは福島県5,310円、2番目は富山県5,311円、3番目は新潟県5,265円、4番目は徳島県で、5番目は長野県と。また、一番安いのは、沖縄県の4,179円。

また、中学校では、一番高額なのは富山県の6,282円、2番目は新潟県の6,148円、3番目は長野県の6,063円。一番小額なのは、同じく沖縄県の4,634円なってますが。

全国平均が、新潟県を下回っておる。新潟県はかなり高い水準にあるということが分かるんですが、いい食材を使ってこの高い値段なのか、また、地方によって食材費が高いのかというのは、私分かりませんが、このことについて担当課はどのように捉えているか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

給食費の額につきましては、議員おっしゃられるとおり全国的にはばらつきがあるかなというふうには思っております。

ただ、その差額がどういった形で出てくるかというところにつきましては、給食の提供方法ですか、食材の仕入先、また人件費など様々な要因があるというふうには思っておりますので、なかなか一概に、こうだから新潟県は高いとか、そういったところの、ちょっと判断はしかねるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

続いて、（3）の米や原材料等の物価高騰に対する給食の対応について伺います。

昨年の10月から、キャベツをはじめとするレタス、白菜の葉物類や大根、ニンジンなどの根菜類も徐々に価格が高騰してきました。夏の高温と12月気温が低く雨が少なくなったことで十分な大きさに育たなかったことが原因と言われてます。

キャベツの価格は、平年のおよそ3.3倍、レタスは2.3倍、白菜、大根は、およそ1.9倍と、今年の春先まで価格が高騰していました。高騰してる間の学校給食費の使用状況はどうだったのか。先ほど、価格は国と市が補填しているということなんですが、使用材料についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりですね、食材費、野菜とか、そういったものについては、この数年で高騰してきております。実際に調理するに当たっては、保護者さんから頂いている金額では不足するというような状況が生じていることから、先ほど私申し上げました、小学校で40円、中学校で60円分の差額につきましては、市なり国の交付金を活用して提供させていただいているといったところでございまして、そういった形で価格高騰には対応させていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

次に、米飯給食について伺います。

1976年に学校給食施行規則等の一部を改正する省令が公布され、米飯は、学校給食制度上に明確に位置づけされたと言われてます。学校における米飯給食の推進について、平成21年3月31日、文部科学省より通知が出されました。米飯給食の推進については、週3回以上を目標として推進するもの、この場合、地場産物の活用推進の観点から、地場産の米や小麦を活用したパン給食など、地域の特性を踏まえた取組にも配慮する。また、地域や学校の実情等により、実施回数が異なっている現状に鑑み、次のように地域の学校の事情等に応じた段階的・斬新的な実施回数を増加を促すこととするとされてます。

ここで、(2)の既に過半数を占める週3回以上の地域や学校について、週4回程度などの新たな目標を設定し、実施回数の増加を図るとされていますが、糸魚川市の実情を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

米飯給食の回数なんですけれども、週3回は確実に行っております。

ただ、ちょっと私もう現場離れて今年で3年目になるんですけども、週3回だったか4回だったかとか、ちょっと今記憶で定かではないんですけども、週1回は必ずパンですとか麺とかが入ってきて、残りは米飯だったというふうに記憶しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

3回以上ということで、ここには達しているんですが、努力義務である4回目を目指す3.5回とかになると、おっしゃるように週4回なのか。その辺も含めて努力をしていただきたいと思いません。

次に、米の購入について伺います。

米の購入は、学校単位で行っていると聞いていますが、どのようなところから購入してるのか。また、米の価格は購入時の価格なのか。また、年間を通して、事前に価格を契約しているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

小中学校の給食での米の納入につきましては、年度当初に契約をさせていただきまして、単価を定めて納入していただいているといったところでございます。それぞれの、例えば地域によって早川産コシヒカリでありますとか、根知産コシヒカリ、あるいは糸魚川産コシヒカリというような形で、その学校の地域に応じた形での契約をさせていただきまして、それぞれ地元の業者さんから納入いただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

最近の米の価格を鑑みると、かなりの高騰をしています。事前に契約をしている業者とも、かなり契約のときと現在では違うような状況と考えますが、オーバーした場合には国や市が補填しているということなんですが、実際、値段が高騰してるかどうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今ほどの米の納入価格でありますけれども、令和6年度ぐらまではですね、それほど大きな変動はございませんでした。

ただ、この春、令和7年度の契約につきましては、令和6年度と比べまして、どちらの事業者さんもおよそ1.5倍というような形になっておりまして、その契約をさせていただいております。

そういったこともございまして、今年度、既に予算のほうをお認めいただいて、給食のほうは提供させていただいているんですが、こういった状況もございまして、今後、場合によってはですね、そういった食材費の補正予算といったところも議会のほうにお願いしていかなければいけないといったところも考えられるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

昨年の8月頃から米の在庫が急激に落ち込んで、秋の刈取りで米の供給量が回復してきましたが、今年に入り、徐々に値上がりして、銘柄米が5キロ5,000円に達しております。ニュースなどの報道で、小泉農林水産大臣の備蓄米放出が起点となって、少しは値段が下がってきた感はありますが、昨年の米の価格には、程遠い状況です。米の高騰は何が原因なのか、農林水産課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

米の価格の変動につきましては、令和5年度につきましては、非常に猛暑と水不足ということで、米の作況指数が悪くて、県内でも20%というようなところもございました。そのため、全国的に米不足というのが発生いたしまして、令和6年度につきましては比較的気候に恵まれて、作況も全国指数で101ということでよかったんですけども、原因として具体的なものというのはなかなか見えてこないんですが、やはり昨年8月の南海トラフの地震の発生というようなことも言われてまして、やはり消費者が買いためしたのではないかと。また、米の価格の上昇をにらんで問屋にあるのではないかと。また、インバウンド需要の拡大に伴いまして米不足が発生したのではないかとということで、いろいろな説が報道等されておりますが、具体的なものがなかなか見えていないというのが現状かというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

今私も、JAの組合員なんで、JAの状況は少しは把握してるんですが、JAの農家からの買取り価格に当たる概算金、これは2024年、また2025年とが違うということが、私ども承知し

ております。実際この金額、幾らだったのか、ご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

お米の仮渡金の件かと思いますが、旧ひすい農協及びえちご上越農協が示しました仮渡金額は、コシヒカリの一等米で、令和4年産が1万3,700円、令和5年産が1万4,200円、昨年6年産が2万1,200円でした。本年7年さんにつきましては、最低保証価格ということで、現在2万6,000円を提示しておりまして、最終的な価格は8月頃に示されるというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

この値段の一つの要因は、これJAが概算金を上げることも一つの要因だと私は考えてます。倍以上になったこともあるんですが、これを受けて、JAに供出しない農家も、農家や事業所も、この価格をターゲットにして、値段を上げてくると私は考えてます。農家の方々が稲作を続けられるような適正価格の提示が、必要かなと私は思ってますが、そこで、今現在、糸魚川市内でどれくらいの米があるのか、在庫として。担当者はしっかり把握できてるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

各問屋ですとか、小売の在庫というところまでは把握できておりません。

農協につきましては、既に自由に販売できる在庫というのは抱えてなくて、実際、現在抱えている在庫というのは、もう販売先が決まっておって、定期的に出荷するものしかないということですので、今JAのほうにも在庫がないというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

それでは、小学校、中学校の秋までの米、これがしっかりあるのか確認したいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほどお話ししましたとおり、市内の事業者さんと契約はさせていただいております。また、今後しっかりと確認をしていきたいと思いますが、確保されているものというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

しっかりとあればいいなと思いますが。

次に、学校給食の無償化について伺います。

学校給食の無償化によるメリットとデメリットがあると思うんですが、これをどう捉えているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

メリット・デメリットということではありますが、なかなか一概には難しいというふうには思っております。当市の場合でいいますと、例えば給食費の徴収事務とかいったところが、もし無償化になった場合には、そういった事務負担の軽減というのは図られると思っておりますので、そういった部分では、ある意味メリットかなというふうにも思いますけれども、ただ一方で、無償化に対する財源といったところが、今のほうで来年度からというようにところも動きがありますけれども、そういった財源の部分が非常にまだ不透明な状況でございます。市のほうにどれだけの財政負担が求められるかといったところも分からないところでございますので、そういった部分は、しっかりと今後、注視していかなければいけないとは思っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

学校給食をめぐる文部科学省は、子育て支援や格差対策などの観点から、全国での無償化を求める声があることを踏まえ、課題を整理したとされています。全国の学校で給食の提供を受けている児童生徒は約880万人いる一方で、アレルギーなどの個別の事情で弁当持参、不登校の場合など、学校給食を食べていない子供が全国に約60万人いるとされています。仮に一律に無償化しても、

こうした人たちに恩恵が及ばないと指摘しています。また、生活が困窮した世帯に対しては、基本的に既は無償化されているため、格差是正の観点も乏しいとしています。さらに、公立学校に限って実施した場合でも、食材費として約4,800億円の安定財源の確保が新たに必要と報じられてきました。

結局は、何がしの税金を投入するしかないのが実情です。学校給食無償化に向けて、国民全員で支えていかなければいけないと感じますが、教育長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

お答えいたします。

先ほど室橋こども課長が話しましたように、財源の確保をどういうふうにするのか。国のほうでは、一応の方針は出しましたけれども、具体案がなかなか見えてこない。いつ頃見えてくるのか。そのことによって、糸魚川市の負担はどうなるのかという部分にも絡んできます。

したがって、財政絡みの課題解決、どのような見通しの中で、どういうふうに具体的に進むのかという部分については、糸魚川市の場合についても注視しながらですね、動向についてはしっかり把握した上で検討課題に乗せていくというふうな方向だと私は思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

全国で約3割は学校給食無償化をしているということで、それ以外の7割が、そういった問題に直面していると私も考えております。政府がやることなんで、しっかりした政府の対応でやっていただきたい。地方自治体にはあまり無理をさせないようにということが望まれると私も思っています。

次に、2のごみ処理の行政課題について伺います。

(1)の当市の市民の分別マナーについて、当市は分別、19分別となっています。家庭ごみの分別一覧表では、図解で見やすく工夫されています。一般家庭から出されるごみの分別マナーについて、ごみ収集委託業者と連絡を取っているか、また、苦情や問題の件数を把握しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

議員おっしゃいますように、現在の分別状況、分別方法になってから既に20年近くが経過しているかと思えます。当初は、やはり分別間違い等で市民の方から苦情をいただくことも多かったんですけども、おかげさまで、ある程度、市民の方にも定着したのか、最近はそういった件数も少ないような状況でございます。

ただ、やはり集積所のごみを持っていってもらえなかったとかというものもまだございますし、あるいは業者さんのほうからは、昨年度もあったんですが、市民の分別間違いが原因で、ごみ収集車の車両火災が発生しております。そういった点から、市民の方への周知をきちんとしてほしいというような要望もいただいておりますので、そういったことを併せますと、年に数件程度は毎年発生しているような状況かと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

夕方の広報で、よくごみの分別についてしっかり市の放送がなされていますんで、それを聞いての方は気をつけようかなという注意喚起がなされていると私も感じます。

続いて、（２）の当市のプラごみの分別収集量の推移について伺います。

プラごみの分別回収の種類では、週１回回収するプラスチック製の容器梱包類、月に２回回収するペットボトル、月１回回収する白色トレイがありますが、分別回収したそれぞれの収容量は、どのように推移しているか、担当課の検証をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

まず、プラごみなんですが、令和２年の収集量と比べまして４７２トン減ということで、減少傾向にございます。これは、やはり人口減の影響等もあるのではないかなというふうに考えております。

それから、ペットボトルにつきましては、令和２年と令和６年を比較しまして約１，７００トン弱の増となっております。これは、気候の変動の影響というのもあると思いますし、やはりお茶やお水等ですね、昔みたいに水筒を持って、持参するという形ではなくて、買って飲むというような、そういう市民のライフスタイルの変化というのにも影響しているのかなというふうに考えております。

それから、白色トレイにつきましては、これも令和２年から６年の数字を見比べますと、１１６トンの減というふうになっております。これは、やはりスーパー等の買物のついでに、その店頭で出されるというところが大きくなってきているのかなというふうに推察しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

私もスーパーへ買物に行くんですが、入り口にちゃんとそういった回収ボックスが今どこにでもあるような状況で、そういったところに皆さんが入れてるのかなと私も感じます。

また、燃やせるごみの中には、分別対象外のプラごみが入っていると思います。燃やせるごみ全

体からのプラごみのおおよその換算量を把握しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

燃やせるごみの中に含まれる分別対象外のプラごみの推定量ということなのですが、燃やせるごみの中に生ごみ等々混じっておりますので、排出量等はちょっと分からない状況でございます。

ただ、燃えるごみのごみ質の調査というのを年に4回しております。その調査の平均値、直近5年間の平均値を見ますと約26%ぐらいというふうになっております。

ただ、これはプラといいましてもビニールとかゴムとか、あるいは非皮製品というような、本当により大きなプラという範囲で考えていただきたいと思うんですけども。それで推計しますと、約2,940トン程度含まれているのではないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

次に、（3）の分別経費の推移とトン当たりの単価の推移について伺います。

分別ごみの中には、蛍光灯などの産業廃棄物に処理費用を支払うものと、アルミ缶のように買取りができるものがあるとお聞きしております。

また、ごみの焼却には経費がかかることから、糸魚川市のごみ処理にかかる経費は、他自治体や人口比率で比較して、どのような状態なのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

ごみ処理経費の比較ということで、お答えさせていただきます。

当市のごみ処理経費につきましては、やはり物価高騰等の影響もございまして年々上昇しているような状況でございます。令和6年度の状況でいいますと、1人当たり2万円強の金額がかかっているというような状況でございます。

また、他市の比較ということなのですが、ちょっと他市と比較したことがございませんので、その部分は不明なのですが、ただ、ごみ処理経費の中には、清掃センター等に係る運営費等も入っております。そうしますと当市の場合、48トンの処理能力ということで、ごみ焼却炉としては比較的小規模なほうに入りますので、やはり人口が多いところほど、効率的なごみ処理、経費的にもそういった効率的なものができるということで考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

ありがとうございます。

以前、私、報道番組で、プラごみ最終処分場の映像を見たところ、透明プラと白いプラのみを再生原料に加工され、その他の色つきのプラは、全て焼却処分されていたようです。この番組の概要は、分別収集された再利用できる透明プラと白色プラの再生製品の経費は、石油から直接製造する材料経費より割高で、SDGsになってないと解説を示していました。透明と白のプラのみ再生されるとあれば、分別収集の段階で透明と白のみに収集することも行政改革の一つと考えますが、担当課のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

今、議員のご提案の中にありました透明プラと白色プラというのが、ちょっと何を指しているのかなというところはあるんですが、透明プラはペットボトル、そして白色プラは白色トレイということで、ちょっとお答えさせていただきたいと思います。

その二つに絞ればいいんじゃないかと。要は、それ以外の、先ほどおっしゃった容器包装プラや何かを燃えるごみにしたらいいんじゃないかというようなご提案だと思います。

ただ、議員ご発言の中にもありましたけども、容器包装リサイクル法制定によりまして、容器包装のリサイクルを取り組むことによって、一般廃棄物の減量と資源の有効活用を図っていくという国の方針が、明確に示されていることもあります。そういった点で、今現在ちょっとそれを見直しを図るというような考えは、正直持っておりません。

ただ、今後、社会情勢等の変化、あるいは技術革新等によりまして、その容器包装プラを燃えるごみに区分変更したとしても、循環型社会の形成に資するというようなところの担保が取れば、その際は、また検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

近藤議員。

○9番（近藤新二君）

ある国会議員の発言では、プラごみ分別で再生材料にする方式では、SDGsに沿わない取組であり、焼却処理することが環境負荷を軽減するという提案をされています。

理由は、中小自治体では、分別収集の分別収集費、分別人件費、分別設備運営費、分別輸送費等の経費が増加しており、また、再生のための最終処分費である分別の人件費、設備の稼働費、再生原料の製造費が高騰しており、再生プラは、割高となっていて、SDGsに貢献していないことと、石油から直接製造することがSDGsに貢献していると報告がされています。このため、今日の重油燃料の異常高騰により、ごみ焼却の運営管理費が高騰になっていることから、プラごみを補助燃料として、重油経費の軽減を図っている自治体があります。プラごみの分別経費を削減し、ごみ焼却炉の補助燃料として活躍する事例を挙げて、国として新たな取組を進めることができないか

との提案がありました。

今日、我が国のごみ焼却炉は、環境に配慮した世界に誇る高性能と評価されており、プラ焼却炉で問題となっているダイオキシンの発生は、国内の焼却炉では全く問題がないとされています。プラごみを焼却することで市民負担が軽減され、分別経費も削減され、ごみ焼却燃料費が節約できます。その上、ポイ捨ても軽減し、海洋ごみも削減できるSDGsに大きく貢献するもので、新たな時代のごみ処理の在り方を構築する姿勢を示していきたいと思いますが、担当課の意見をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

あのね、基本的にさ、ゼロ秒質問というのは駄目なんですよ。1秒でも残して質問してほしいんですよ。質問した瞬間にゼロになってますからね、今回は許しますけど、次回からは十分気をつけてください。

それでは、担当課、答弁を願います。

環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

先ほど質問にお答えしたように、容器包装リサイクル法制定の趣旨について、先ほど答弁させていただいたとおりなんですけど、最近の、直近の状況をちょっとお話しさせていただきますと、令和4年にプラ新法というものができております。正しくは、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律という、大変長い法律名なんですけど、俗にプラ新法と言われるものです。

この法律は、やはりプラスチック製品廃棄物のその排出抑制と、再資源化、リサイクルを進めていくというところを目的としておりまして、プラスチック製の容器やその包装だけでなく、ハンガーとか、あるいはバケツなどの製品プラ、それにつきましても、今後はリサイクル対象としていくというような新しい法律ができております。

ただ、本市の場合には、まだそこまではしておりません。それしてしまいますと、やはりごみの焼却施設での燃料カロリーが下がることが想定されますので、やはりごみ処理施設の運営自体にも影響が出てきますので、今現在は、容リプラだけの区分回収というふうにしております。

ただ、これがいつまでもできるかというところもありませんで、やはり施設の改修をするという際には、国のほうは、国の補助金、交付金等の一つの条件というふうにしておりますので、いずれそういったものをするのか、それともしないで施設の延命等を図っていく方向になるのかといったところの判断は、していかなければいけないというような状況でございます。

以上です。

○議長（古畑浩一君）

以上で、近藤議員の質問が終了いたしました。

13時まで休憩いたします。

暫時休憩いたします。

〈午後0時00分 休憩〉